

かくて本会第2年次の研究活動が現場の実践を通して広く全都の視野に及び、さらに現学習指導要領に基づく効果的学習に発展する道を開いたと同時に体育指導を担当する教師の研究が広く認識された意義は少なくない。

第3年次(40年度)の研究活動は前年度の結果に力を得て、いっそう意欲的に進められ、その内容の質的向上は顕著であった。

この年に予定されていた文部教研、全国学校体育研究大会にさきがけて開催した11月5日の中野区立富士見中学校における研究協議会は、全都の会員多数の参加を得て先ず同校保健体育科の浜口教諭の格技(剣道)教材の指導の中で、体力づくりを意図した体育学習と大岡教諭の保健学習の研究授業と全校生徒の業間体操の実際が公開され、さらに同校における体力づくりへの実践研究の発表を基に、中学校保健体育科指導の今日的方向について研究協議がなされた。

この研究会のあとをうけて21日から23日の3日間にわたる全国学校体育研究大会には東京都の研究連合会の立場で積極的に参加協力し、事前研究はもとより大会推進の役割を果たしたが、特に本会常任理事の田能村、鈴木両氏が提案者として発表したクラブ活動のあり方について(田能村)と業間の体育と集団行動(鈴木)は、今後の学校体育の課題解決に資するものとして多くの反響を呼び注目をあびた。

昨年に続き本年2月3日に開催した第2回研究発表会は、より公募の趣旨も連絡も徹底し、非常な関心が寄せられ、発表者は著しく増加し、またその研究内容も広範囲に及び、1日を要した日程をもっても消化し得ないほど充実し、本会の研究活動も地についた感を深めた。紙上発表を含めて当日の内容は次の通りである。

○ 保健体育科における強化運動の実践

港区 港 中 酒井 一幸

○ 体力づくりの習慣形成とその指導

港区 港南中 加藤 幹

○ 疲労と睡眠について

墨田区 吾嬬中 佐々木貫衛

○ サッカーの学習指導

品川区 荏原一中 宮本 政明

○ クラブ活動のあり方

世田谷区 八幡中 木村 国次

○ 女子における持久走の指導について

中野区 富士見中 大岡 皓美

○ 体力づくりとクラブ活動

杉並区 東田中 大瀬良佐吉

○ 体力と技能との習熟に関する一考察

杉並区 中瀬中 室賀仁・早川正

○ 体育指導における生活指導の位置づけ

板橋区 志村三中 梅沢 岩尾

○ 練馬区立中学校生徒の発育について

練馬区 豊玉中 山下 渡

○ 業間体育

〃 開進三中 鈴木 蔵治

○ 水泳におけるスピードと体力との関係

足立区 蒲原中 鈴木喜美子

○ 鉄棒運動指導の一考察

八王子 七中 小池 国雄

○ クラブ活動における器械運動の上達について

北区 神谷中 吉田 恒雄

以上本会結成後3年の歩みの中で、研究活動を進めてきた経過のあらましを述べたが、別の形で本会の動向を示すものは、年1回発行する会報「体研」があげられよう。いま近く第3号が発行されるが、この2号から特集として文部省、東京都、体協、中体連などの代表者と現場および本会代表による座談会を開催し、その記録を掲載している。第2号にはオリンピック東京大会を契機とする「これからの中学校体育」今回発行する第3号には「学習指導要領の改訂にあたって」をテーマとして、その時代的課題について世論に対応する各界の声を紹介している。

最近における研究活動の動向

さて、昨年6月以来、文部省は時代の進展にともない教育内容の質的向上をはかるとともに、これまでの経験にかんがみて、児童生徒の発達段階や個性、能力に即し、学校の実情に適合するよう義務教育における教育課程の改善を必要とし、さらに基本的には人間形成のうえから教育課程全体として統一と調和がはかられているかどうかを検討する必要から審議会にその検討を求め、さらにこれに基づき、学習指導要領の改訂をめざして、それぞれ調査研究の会議が発足していることは周知のことであるが、中学校保健体育科がいかなる問題点を究明して改訂への道を開くかは、いまの研究活動に結びつくもので、その動向に対する一端にふれてみよう。

現在、世界各国は競って国民体力の向上に努めている。わが国においても、オリンピック東京大会を契機にして、国民体力増強の必要性を痛感し、政府はもとより各種民間団体がこれに協力して国民の健康、体力づくり運動を展開している現状にある。特に将来の日本をになう青少年が、体格の著しい発達に比して、体力の発達の劣る現状は、これまでの学校教育における知育偏重の傾向と関連して、その改善を要することが望まれており、現に中学校における体育研究の中心的課題となっている。

このような現状の中で、今回の学習指導要領の改訂にあたって、学校生活における体育活動をいっそう重視して、児童、生徒の心身の健全な発達をはかるため、どんなことがらが検討の対象となるだろうか。

体育の分野について

1 体育指導の充実を期するため教育課程全般について考えられる問題点

(1) 授業時数のこと

発育発達の最も著しい中学校生徒に対して体育学習の週あたり授業時数が、3・2・2では少く

過ぎることは誰しも異論がないところであるが、現教育課程においては改めることができなかった。今回、体力づくりの必要性が強調されている以上、このことについては単に一教科という観点から脱して、教育課程全体の調整を行ない、少なくとも各学年3時間の授業時数を確保する努力がなされなければならない。

(2) クラブ活動の充実を期すること

クラブ活動が人間育成の場として、また体育活動の充実をはかるうえからも、意義あることはいうまでもないが、現実には実施時間、指導者、施設設備などの制約をうけ、加えて高校入試の切実な問題によって、その活動は有名無実といわざるを得ない。今日教育の正常化が問題になっているが、クラブ活動の充実を期する根本的改善は、教育課程の内容を思いきって精選し、ゆとりある日課の中でその位置づけをはかる措置がされなければならない。

(3) 毎日の生活に体育活動の場を設けること

現在の教育課程においては、体育活動の場を生活時程の中に位置づけることは、いづくして困難が多い。然し最近その声が高まり生活時程の工夫改善をはかって、業間体操などを実施する傾向がみられるようになったが、これをより強化し、無理なく実施するためには、教育課程全般の立場から検討する必要がある、またその効果的方法については研究の余地があろう。

体育学習の目標や内容の改善充実について

(1) 体力づくりのこと

今回の改訂で体力づくりをどのようにとりあげるかは大きい研究課題で、各方面の関心が高い。すなわちその目標において、これを明確化することは当然考えられるが、体力づくりを強化するために、身体活動をととして人間形成をめざす本質的意義を誤ることがあってはならない。要は体力づくりが主要な体育学習の目標でないことにかわりはなからう。なお、体力づくりをどのように学